



環境省 自然環境局

イラスト：永田信行



生物多様性センター

Biodiversity Center of Japan



表紙のイラスト

日本各地の生物多様性を1枚の絵巻にして表現した「つながりんぐ」から一部を抜粋しました。全体は展示室にてご覧いただくことができます。北海道から沖縄まで、300種以上の動植物が描かれており、日本の列島の生きものたちのつながりが表現されています。



生物多様性センターからのお知らせ

●「生物多様性まつり2013」開催のお知らせ ～再発見!! 暮らしの中のいきものたち～

「生物多様性まつり」は、生命のつながりについて楽しく学んでもらうことを目的として開催されるイベントです。今年のテーマは「再発見!! 暮らしの中のいきものたち」です。企画展示やクラフト、野外観察会等を通じて、私たちといきものとの忘れられがちなつながりについて紹介します!



昨年の野外観察会の様子

■日 時：平成25年8月4日(日)／ 午前9時～午後5時

■場 所：環境省 生物多様性センター

■対 象：どなたでも ■参 加：無料(野外観察会は事前予約と保険代50円が必要)

※お問合せは裏表紙をご参照ください。

●東日本大震災による影響を受けた自然環境の調査を行いました

東北地方太平洋沖地震及びそれに伴う津波(以下、「震災」という。)は、人々の生活のみならず、東北地方太平洋沿岸地域の自然環境にも大きく影響を与えました。その一方で、被災による「消失」だけではなく、「新たな環境の創出」もあり、被災地における自然環境は日々変化しています。

生物多様性センターでは、震災前後の自然環境の変化を把握するため、関係行政機関や研究機関によって行われてきた自然環境、生物多様性に関する調査・研究の情報を収集・整理するとともに、植生調査や海岸調査等広域の変化状況を面的に把握する調査と、干潟や藻場等の定点の変化状況をスポット的に把握する調査の2種類の調査を実施しました。震災前後の植生の変化状況を表す植生変遷図からは、海岸部のクロマツ林や希少な植物群落の消失等が確認され、また、干潟の調査結果からは、干潟環境の変化に伴う甲殻類や貝類等の生息状況の変化が確認される等、本調査の結果から震災が自然環境へ与えた影響の大きさを再認識することができました。



植生変遷図(仙台湾)

これらの結果は、多くの人たちに広く共有し活用してもらう必要があることから、昨年8月に公開した「東北地方太平洋沿岸地域自然環境情報～東日本大震災による自然環境の変化を記録、共有するためのポータルサイト～」を通じて、各種調査の成果を公表しています。

今後は、これらの調査を継続するとともに、調査結果を復旧・復興事業や各種保全施策へ活用するため、自然環境保全の観点からの重要地域のピックアップやウェブサイトの改修を行う予定です。

http://www.biodic.go.jp/Tohoku_Portal/

●モニタリングサイト1000ウェブサイトをリニューアルします

モニタリングサイト1000の成果をより活用してもらうために、ウェブサイトをリニューアルします。ウェブマッピングシステム(WMS)による調査サイト表示機能の追加や、生態系毎の成果物の整理・紹介ページの拡充等を行い、成果を利用しやすくする予定です。また、これまでの調査で得られたデータの公開についても拡充を進めており、調査報告書のほか、ガンカモ類、シギ・チドリ類調査で得られたサイト毎の個体数データや里地調査で得られた外来哺乳類の出現種及び個体数のデータ等新たなデータを追加しています。今後も沿岸域や陸水域、高山帯等、各調査のデータを順次公開予定です。

今夏のリニューアルを予定していますので、ますますのご活用をお待ちしています。

<http://www.biodic.go.jp/moni1000/>

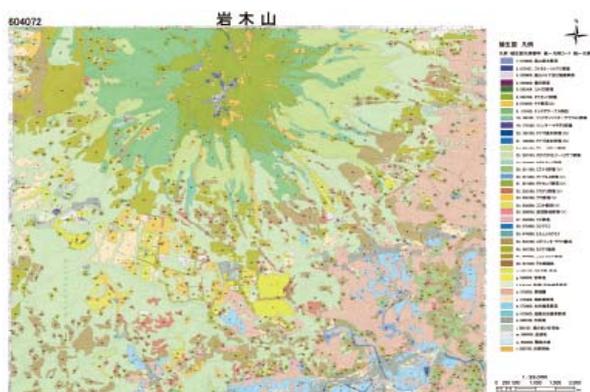
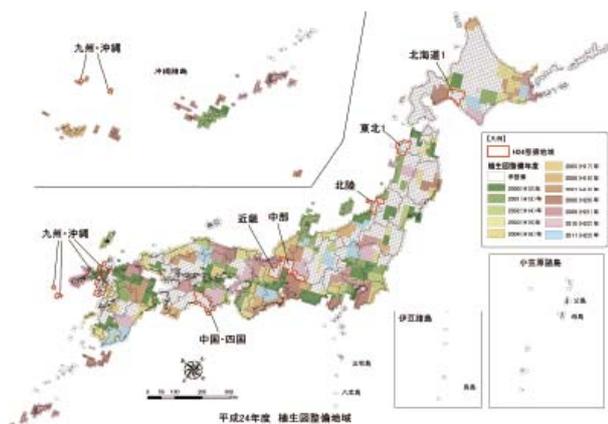
● 植生図を整備しました

生物多様性センターでは自然環境保全基礎調査の一環として植生調査を実施しています。平成11年からは2万5千分の1縮尺の植生図を整備しています。平成24年度は183面分の整備を実施し、平成25年3月末現在で累計3053面分の整備が完了し、全国の約64%が整備済みとなりました。

ある地域を覆っている植物体の総称を植生といい、それらの面的な配分状況を地図上に表現したものが植生図です。植生図を見ればその地域にどのような植物がどのような配分で生育しているかを把握することができることから、植生図は自然環境情報の基礎的な図面であるといえます。自然環境保全のための調査研究の基礎資料とし、行政需要に応えるため、植生図の速やかな整備が求められています。

なお、整備済みの植生図は生物多様性センターウェブサイト内の植生調査情報提供ページで閲覧、ダウンロードすることができます。

<http://www.vegetation.jp>



上図：平成24年度 植生図整備地域
右図：1/25,000植生図「岩木山」

● 「いきものログ」をオープンします

インターネット上で生物多様性情報を集め、共有する新しいウェブサイト「いきものログ」をオープンします。「いきものログ」へは、誰でも生物の目撃情報を登録することができます。

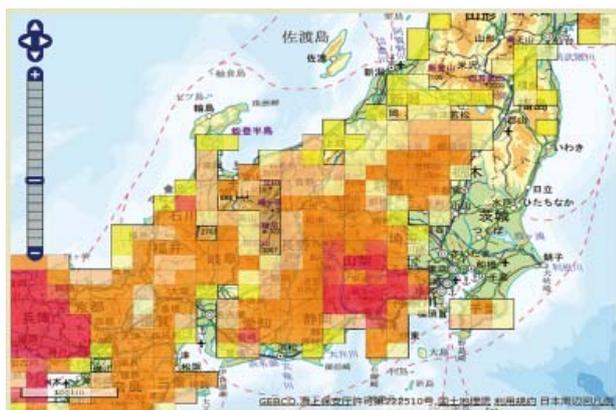
集められた情報は、生物名を指定して閲覧できるほか、分布図やグラフとしての表示やダウンロードが可能です。また、皆様から寄せられた情報とあわせて、生物多様性センターの調査結果等も発信していきます。例えば、これまで「生物多様性情報システム (J-IBIS)」で提供してきた自然環境保全基礎調査の動物分布調査等も組み込んで、これまでより検索しやすく、使いやすい形で提供していきます。

「いきものログ」は今年度中の公開を予定していますが、多くの方々の参加により「育てる」システムですので、ご協力をお願いします。

<http://ikilog.biodic.go.jp/>



いきものログ



ニホンジカの分布をメッシュで表示した図。メッシュ以外に、都道府県や市区町村単位などでも分布図を描画することができます。

●ライブカメラ新設

生物多様性センターのウェブサイト「インターネット自然研究所」では、日本の美しい風景や野生生物の姿を伝えるため、全国の国立公園や野生生物の生息地にライブカメラを設置し、撮影された画像をインターネットを通じて配信しています。

このたび、「美幌峠からみた屈斜路湖」「那須平成の森からみた那須岳」等の、計4箇所のライブカメラを増設しましたので、平成25年5月末現在、全国66箇所のライブカメラ画像が閲覧できるようになりました。

各カメラの画像は日中1時間ごとに記録され、過去数年分の画像がデータベースとして保存されているので、変わりゆく自然の姿や風景をご覧ください。

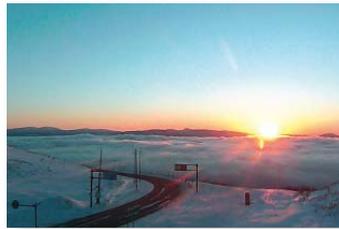
<http://www.sizenken.biodic.go.jp>



那須平成の森からみた那須岳(平成25年5月25日)



サロベツ湿原センターから見たサロベツ湿原(平成25年1月23日)



美幌峠からみた屈斜路湖(平成25年1月9日)



三方湖の水鳥(平成25年2月22日)

●センサーカメラについて

種名	合計撮影回数	種別	その他			
ヒヨドリ	752	センダイムシクイ	ニホンリス	149	ヒト	11
ヤマガラス	726	ルリビタキ	アカネズミ	54	トカゲ	5
シジュウカラ	586	シマセキレイ	ヒメスズメ	21	シマヘビ	2
ヒヨドリ	517	アオハヤ	キツネ	19	オオマルハナバチ	1
ユリカ	177	シメツ	ホウ	12		
シロハラ	136	ベニヤシロ	クマ	8		
ツグミ	132	アオジ	ハクビシン	2		
カケス	116	アトリ	アライグマ	2		
メジロ	101	マドリ	ノネズミ	2		
ホオジロ	75	ゴジュウカラ	サシ	1		
エナガ	28	アオゲラ	ツキノワグマ	1		
ウグイス	18	クロツグミ				
キビタキ	17	ハシブトガラス				
ヤブサメ	15	トウツグミ				
コルリ	14	ミンサザイ				
アカゲラ	10					
				総データ数	3487	
				撮影種数	46	

センサーカメラは、赤外線によって動物の体温を感じ、自動で写真を撮影するカメラで、夜行性動物や人の気配に敏感な直接目にするのが難しい野生動物の生息調査等に広く使われています。

写真によって、動物を捕獲せずに確実な記録が得られることからカメラトラップと呼ばれることもあります。

ここでは、生物多様性センターの水場に設置したセンサーカメラがとらえた動物たちの一部をご紹介します。センターには今までに撮影された動物たちの写真集がありますので、ぜひお越しください。

平成24年4月18日から1年間の撮影結果



きれいな羽をもつカケス
水の中をのぞき込んでいます



水場に来る鳥たち



時には思いがけない珍客も訪れます
写真はツキノワグマの子ども

●『新宿御苑みどりフェスタ2013』に出展しました

毎年4月29日に開催される「新宿御苑みどりフェスタ2013」に今年も出展し、生物多様性に関する展示や標本展示、粘土で生きものを作るコーナーの展示を行いました。当日は天候にも恵まれ、たくさんの方々に参加いただきました。また、生物多様性センターのマスコットキャラクターであるズックちゃんは元気に動きまわり、子ども達に囲まれ大人気でした。生物多様性センターでは、今後も様々なイベントに参加し、「生物多様性」について皆様にご覧いただくための普及啓発活動を続けていきます。



ズックちゃんともちたち

●キッズコーナー ウェブサイトリニューアルのお知らせ

生物多様性センターのウェブサイトで公開されている「キッズコーナー」が今夏リニューアルします。

全体のデザインを一新し、ズックちゃんが出題する生物多様性センターに関するクイズ(ズックイズ)や、センターの周辺の自然情報や展示についてわかりやすくご紹介します。ズックイズを全問正解すると、秘密の画像がもらえるかも？

<http://www.biodic.go.jp/kids/index.html>



●第4次レッドリスト検索システム紹介

環境省では、平成20年度よりレッドリスト見直し作業を進め、平成24年8月に哺乳類や鳥類など9分類群、平成25年2月には汽水・淡水魚類1分類群を追加し、新たなレッドリスト(第4次レッドリスト)として取りまとめました。新しいレッドリストのデータは、生物多様性センターのウェブサイト「絶滅危惧種検索」で検索できます。

http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html



●JICA研修「生物多様性情報システムコース」の紹介

生物多様性センターでは平成10年の設立当初から、JICA研修「生物多様性情報システム研修」を実施し、海外より多くの研修員を受け入れて来ました。この研修は、世界各国の政府機関あるいは地方政府等において、自然環境保全や生物多様性保全等の施策を実現するために、生物多様性に関する情報の収集、管理、提供を行う「生物多様性情報システム」を構築し、管理する能力を身につけることを目的としています。昨年までの15年間で48ヶ国、142名が研修に参加しており、今年も8月5日から約2ヶ月弱の期間実施する予定です。生物多様性センターのJICA研修等については、以下で紹介していますので、ぜひご覧ください。

http://www.biodic.go.jp/JICA_Homepage/index-j.html



平成24年度の講義の様子

●標本展示のお知らせ

これまでご好評いただいていたエントランスホールのニホンジカとニホンザルの剥製標本に代わり、富士北麓に生息していたイノシシの剥製標本(幼獣と成獣オス)の展示を開始しました。触れる標本展示(ハンズオン展示)としていきますので、ぜひ間近で見るイノシシの迫力をお楽しみください。今後もハンズオン展示として富士北麓に生息していたツキノワグマ等の大型剥製標本を順次展示していく予定です。

また、展示室(つながりうむ)とエントランスホールに設置した標本展示ケースでは現在、カラスバト、キンバト、ズアカアオバト、キジバトの剥製標本を展示中です。ハト科4種の羽の色や形態的特徴等を見比べてみてください。標本展示ケース内の標本は一定期間毎に入れ替えを行っていますので、今後の展示にもご期待ください!



●新しい展示が増えました



新たな標本展示として、昆虫標本展示と頭骨標本展示を開始しました。

昆虫標本展示は、理解が難しい遺伝的多様性の仕組みについて、実際の標本で近縁な種同士を比較しながら学ぶことができる展示となっています。今後も遺伝的多様性を顕す希少な昆虫標本を順々に交替しながら展示していく予定ですのでお越しの際にはぜひご覧ください。

加えて、頭骨標本展示では、コウモリの頭骨からニホンカモシカの頭骨まで、大小様々な哺乳類の頭骨を展示しています。種によって大きさや形の異なる哺乳類の頭骨を見比べてみてください。

生物多様性センターに収蔵している標本の紹介 第23回

和名 / アカショウビン
RDBカテゴリー / なし
学名 / *Halcyon coromanda*
分類 / ブッポウソウ目 カワセミ科



アカショウビン (上野動物園にて)

●赤翡翠



リュウキュウアカショウビン本剥製 当センター所蔵

アカショウビン(赤翡翠)は東アジアおよび東南アジアに分布し、毎年5月頃になると繁殖のために日本に飛来する夏鳥です。溪流や湖沼近くの森林に生息し、北海道から沖縄までほぼ全国で繁殖が確認されていますが、渡来数は少なく、なかなか出会うことのできない野鳥です。カワセミやヤマセミといったカワセミ類は、国内で一年中見られますが、アカショウビンだけが夏鳥です。生物多様性センターには、南西諸島に渡ってくる亜種、リュウキュウアカショウビンの標本が収蔵されています(左写真)。

●メスのために尽くすオス

アカショウビンは様々な小動物を食べますが、5月から7月の繁殖期のオスの狩りには特別な目的があります。繁殖期になるとオスは求愛のさえずりでメスを呼び、メスのために獲物を捕まえてプレゼントするのです。これがアカショウビンのプロポーズです。そして、卵を産むための巣穴作りもオスが行います。巣穴ができるまでの間、メスは近くの枝でその様子を見守りながら時々作業の進行具合を点検し、巣穴が気に入ると、メスは3個から5個の卵を産み育てます。好きな相手のために一生懸命に尽くす姿はどこか人間にも似ています。



●火の鳥の雨乞い



アカショウビンは全長27cmほどで、全身が赤褐色の羽で覆われています。この羽は翼と体の背面で色が濃くなり、紫色をおびます。また、腰には羽ばたくときにだけ見ることができる水色の羽を持ち、くちばしと足は鮮やかな赤色をしています。その姿から「火の鳥」という異名もあります。アカショウビンには他にも多くの異名や方言がありますが、朝夕や曇りの日、雨の中で「キュロロロ…」と鳴くため、古くから「雨乞鳥(あまごひどり)や水乞鳥・水恋鳥(みづこひどり)」と呼ばれ、のどを潤す雨を求めて鳴いているのだと言い伝えられています。

また、亜種リュウキュウアカショウビンはその鳴き声から「ホッカローやゴッカロー」とも呼ばれています。みなさんも森の中で「キュロロロ…」という雨乞いの声を聞いたら、火の鳥の姿を探してみてください。

施設紹介

センター長からのあいさつ



こんにちは。
4月に着任したセンター長の中山です。

生物多様性センターは、緑の国勢調査の実施や全国1000箇所での

生態系監視を通して、我が国全体の自然環境を把握しています。これをコツコツと実施するのはもとより、把握した自然環境データをユーザーの視点で、使い勝手にこだわり公開をしていきたいと思っています。また、自然環境の把握をセンターや専門家だけに任せる、任せていただくのではなく、誰もが参加できる仕組みを作り、皆様と協働して進めたいと思います。

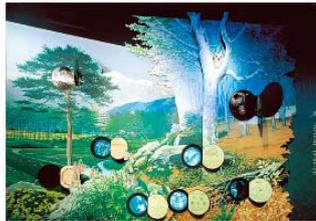
今、センターのある富士山地域は、富士山の世界文化遺産登録で盛り上がっています。私は小笠原諸島、知床と世界遺産の登録管理に携わった経験があり、その経験から富士山の自然環境保全はこれからが正念場だと思います。センターは全国調査を旨とする機関で、実は富士山には直接関わりがありませんが、自然環境情報等の得意分野で寄与したいと考えています。

よろしくお願いいたします。

センター長 中山 隆治

展示室 つながりうむ

生物多様性センターでは、生物多様性に関する「？」を解決するヒントが詰まった展示室を設けています。生物多様性を保全することの大切さをわかりやすく伝えます。



展示ロビー

ふくろう文庫では、生物多様性に関する本を読むことができます。また、つながりの木には、生きものと一緒に生きていくためにみんなができることを書いてもらっています。



図書資料閲覧室

生物多様性センターでは、生物多様性に関する図書や各種文献などを収集・保管しています。これらの図書や文献資料は、図書資料閲覧室で閲覧することができます。



利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 冬季期間(12月～4月)の土日祝日
年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 無料
- 団体でご利用される場合は事前にご連絡をお願いします。
- 図書資料のご利用は平日のみです。
- 図書資料の貸し出しは行っておりません。

交通案内

- 富士急行河口湖駅または中央高速バス河口湖駅下車タクシーで約15分
- 中央自動車道河口湖ICまたは東富士五湖道路富士吉田ICより車で約15分



環境省 自然環境局

生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1
ウェブサイト URL <http://www.biodic.go.jp/>
TEL 0555-72-6031 FAX 0555-72-6032・6035



リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。